

4 長門地域における持続可能な畜産業への取組

西部家畜保健衛生所

○佐野裕規・大石大樹

長門市は畜産業が基幹産業の一つであり、とりわけ肉用牛と肉用鶏については県内有数の産地としてその名が知られているが、担い手の減少、生産費の高騰等により生産基盤が弱体化している。このような中、市は畜産業の振興に資するため、10年後を見据えた「畜産振興計画」の策定に乗り出した。当所はその計画策定を支援するとともに、肉用牛繁殖農家を支えるキャトルステーション（以下、CS）整備、運営支援を行った。

1 家保の取組

1) 畜産振興計画策定委員会への参加

当該委員会は家保、市、農協、生産組合、養鶏組合を委員として令和4年8月から開催され、当所は全6回の協議に参加した。委員会では住民や生産者に対してアンケートが実施され、地域で求められる畜産施設像が明確化された。当所は畜産施設に係る飼養衛生管理基準の遵守について指導及び先発事例の情報提供を行った。

2) CSの整備・運営支援

平成30年から市が取り組んできたCSの整備及び運営について、市と一体となった支援を行った。当所は先進地の情報を収集して、CSの設計制度を整理し、補助事業を活用した牛舎の修繕や子牛管理機器の設備導入を誘導した。また、CSが整備された後には飼養衛生管理基準の遵守指導、預託予定牛の牛伝染性リンパ腫検査等の衛生的指導に加え、給与飼料プログラムの提案や、月2回の体測により発育状況をフィードバックした。

2 成果

1) 畜産振興計画の策定

令和5年3月に畜産振興計画が策定された。計画では肉用牛肥育施設、肉用鶏団地の整備に加え、混合堆肥製造施設を合わせた畜産団地を整備し、資源循環型農業を目指すこととなった。また、畜産振興計画策定委員会は、令和5年度に新設された「長門市未来農業創造協議会畜産振興部会」に役割を引継ぎ、当所は同部会の委員として引き続き参加し、より実践的な審議を継続している。

2) CSの稼働

令和3年度から既存の法人で実証開始されていたCS事業を引き継ぎ、空き牛舎を改修整備した「キャトルステーションながと」が令和5年10月27日に開所した。現在5頭の牛を飼養しており、令和6年3月の子牛市場への初出荷を予定している。

3 今後の展望

畜産振興計画の推進については引き続き協議を進めており、当所は今後も協議に参加し、国事業等を活用した施設整備の支援を行っていく。また、CSについても支援を継続し、長門地域の持続可能な畜産業への取組を進めて行きたい。